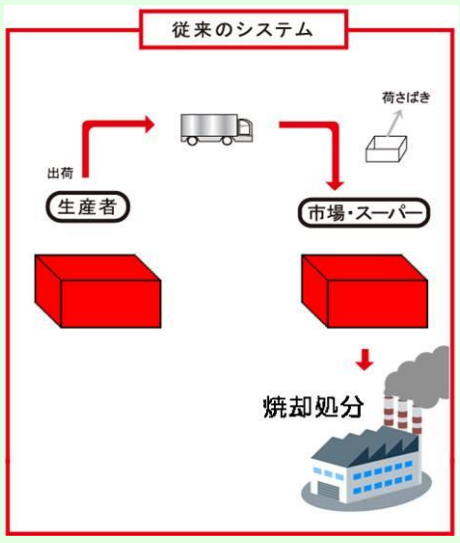
平成22～23年度実施課題

保冷容器の循環利用システムの開発

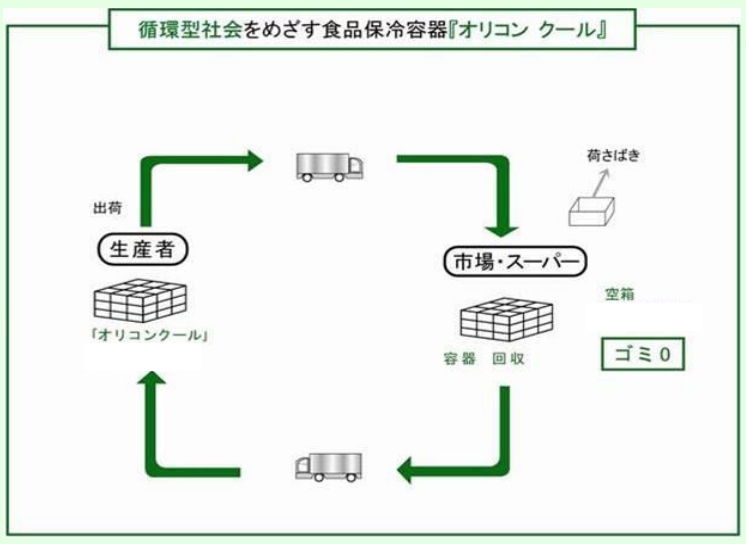
株式会社REC　阿部　亨（研究代表者）

1. 研究の背景



1回使い捨て
(大量消費社会)

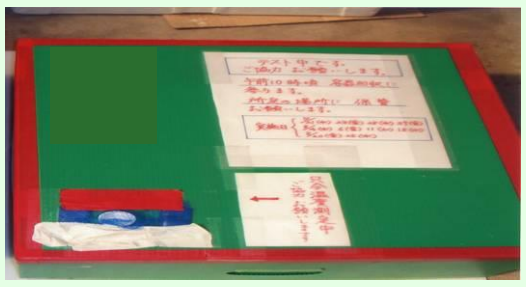
産業構造の転換が必要



繰り返し再利用
(循環型社会)

2. 研究目的

前年度の成果
～発泡スチロールとの比較～



プラコン容器

- 保冷性能：同等
- CO_2排出量※：1/10～1/30
- 廃棄物量※：1/5～1/15
- **作業性：改善の余地あり**

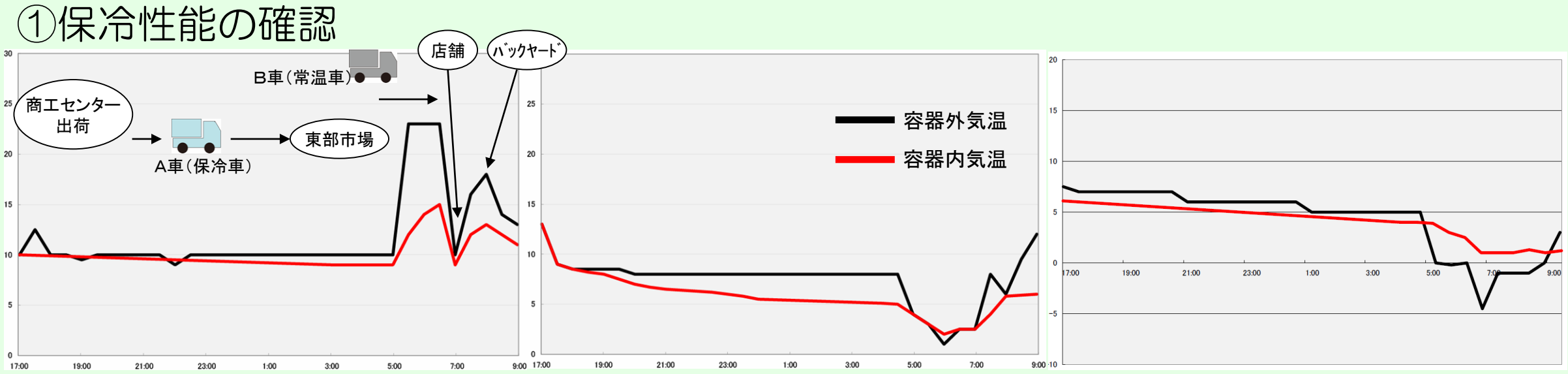
（※200回使用時）

改良容器

実施内容
- 保冷性能の確認
- 耐久性，作業性の検証
- 洗浄，抗菌性付加の可能性検討
- 環境性の評価

3. 研究の成果

①保冷性能の確認



夏(8月)　　秋(11月)　　冬(2月)

✓15℃以下を保つ　　**✓保冷車不要の可能性が示唆される(秋～冬)**

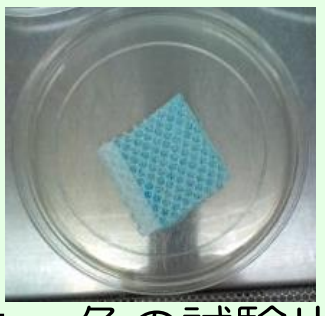
②抗菌性の検討

- MIC測定法(37℃，24時間培養)
- 試験菌株

Staphylococcus aureus IFO 12732
Escherichia coli IFO 3972

阻止円径で判定

抗菌マット



5cm角の試験片

広島循環型社会推進機構
TEL・FAX 082-258-2828　e-mail junkan@tulip.ocn.ne.jp　HP：http://www9.ocn.ne.jp/~junkan/